

## 環境情報科学・研究発表大会・企画セッション

### 新たなステージに移行した日本の地層処分政策を考える

#### (第2回)

##### 趣旨:

北海道の寿都町の文献調査への応募や神恵内村の国の申入れ受諾など、日本の高レベル放射性廃棄物（HLW）の地層処分をめぐる状況は新しいステージに移行しつつあります。地層処分政策をめぐるのは、新たな動きによって新たな課題が浮き彫りになると同時に、従来から積み残された問題も多くあります。

福島原発事故から10年が経過する時期に出てきた新たな動向を踏まえ、地層処分政策をめぐる以下の3つの論点を中心に企画セッションを行います。

1. 地層処分施設の立地選定を基礎自治体（市町村）をベースに進めることの問題点や弊害は、どのようにすれば軽減できるのか。
2. 過疎地域の町村における立地調査が先行する状況となっているが、全国的合意形成は必要ないのだろうか。また、全国的合意形成はどのようにすれば良いのだろうか。
3. 少なくとも数千年から数万年に及ぶHLWリスクという世代間公平性に配慮した政策過程のデザインやガバナンスはどうすれば良いのだろうか。

主催：（一社）環境情報科学センター

<https://www.ceis.or.jp>

開催日時：12月12日（土）14:00-15:30

開催方法：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

申込先：以下のWebサイトから申込みください。受付メールが送られます。

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_e-p-lKMXQnu\\_Swc68Zbdiw](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_e-p-lKMXQnu_Swc68Zbdiw)

##### 司会：

松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

##### 報告者：（各10分）

松本礼史：日本大学生物資源科学部教授

「地層処分政策と社会的受容性について考える」

竹内真司：日本大学文理学部教授

「地層処分政策と技術的受容性について考える」

黒川哲志：早稲田大学社会科学総合学院教授

「地層処分政策と制度的受容性について考える」

##### 討論者：（各5分）

梅木博之：原子力発電環境整備機構（NUMO）理事

徳永朋祥：東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

寺本 剛：中央大学理工学部准教授

##### 総合討論：（40分）

##### 問合せ先：

早稲田大学レジリエンス研究所（WRI） e-mail [jyuten-fukkou@list.waseda.jp](mailto:jyuten-fukkou@list.waseda.jp)